

百力日

ひゃっかにち

七、八百年もの古い歴史をもつ寺院もありますが、浄土真宗では室町末期から江戸初期、ないし中期にかけて建立されたお寺が大半ではないでしょうか。比較的新しいとはいえ、三、四百年あまりの歴史を刻んできました。こうした浄土真宗のお寺には、他宗にはみられない歴史的な特徴をもっています。それは、貴族や大名といった時の権力者からの寄進きしんによって建立され、維持されてきたのではないというこ

永代経

とです。その顕著けんちやくな例が、中部山岳地方の五箇山ごかやまの道場です。熱心な念仏者の自宅の座敷を開放し、ここに名号をかけてご本尊とし、村の人びとと共に定期的に法要を



営みしました。そして念仏者のひろがりによって、手ぜまになったことから村人の手によって独立した建物(道場)が建立されるのです。これが、しだいに寺院化していきます。念仏者により、念仏者のために建立され、維持されてきた寺院、それが浄土真宗のお寺なのでした。

「永代経えいたいきん」とは、お念仏の道場として永代にわたってお経があげられていることをよろこばせていただく法要です。お寺では春秋の気候のいいときに、永代経法要えいたいきんほうようがとまります。機会をみつけて、お参りしたいものです。